

第 34 回全国教育研究交流集会

日時 2026 年 1 月 10 日（土）全体会・11 日（日）分科会

主催 民主教育研究所 03-3261-1931 メール office@min-ken.org

テーマ 「戦後 80 年・平和と教育を考える」
ーすべての子ども・若者に学ぶ喜びと生きる希望をー

1 月 10 日（土）全体会 全国教育文化会館 7F ハイブリッド開催

司会 坂野愛実さん

10 時（120 分間）オープニングリハーサル 7F プロジェクターとスクリーン

12 時 打ち合わせ 事務局でお弁当を用意します 7F または 6F 図書館

坂野さん 中嶋さん 中村さん ダニーさん 小早川さん 鳥海さん 阿佐美さん
江田さん 事務局

13 時（30 分間）

オープニング企画 朗読劇「韓国人被爆者の身世打鈴(シンセタリョン)」

プロジェクターとスクリーン

開会挨拶 中村雅子さん 13 時 30 分（5 分間）

講演 「どうして戦争しちゃいけないの・気づき戦争と人権」

ダニー・ネフセタイさん 13 時 35 分（90 分間）

プロジェクターとスクリーン

基調報告 中嶋哲彦さん 15 時 5 分（25 分間）

休憩 15 時 30 分（10 分間）

シンポジウム 「平和な未来へ紡ぐ」15 時 40 分（20 分間×3 人）

シンポジスト紹介 中村雅子さん

小早川武史さん 戦跡調査とガイド

鳥海 太佑さん 大学生平和ゼミ

阿佐美朱理さん 秩父ユネスコ

コーディネーター 坂野愛実さん

討論司会 中村雅子さん 坂野愛実さん

交流会 18 時

分科会 完全オンライン

1月11日（日）10時から16時

第1分科会 子ども・若者とともに今を変える

自己責任があらゆる場面で強いられ、人々は誰にも頼らず生活することを余儀なくされています。貧困と格差による困難や、差別・排除におびやかされる日々が続いています。そうした社会のひずみは子ども・若者により強く及び、育ちを翻弄します。その中で個人に帰せられてしまう「問題行動」が生じたり、また気づかれない孤立が生まれたりしています。これらは子ども・若者たちのSOSに他なりません。本分科会では、子ども・若者を取り巻くさまざまな困難の実態とその背景について検討し、理解を深めたいと思います。そして、そうした中で子ども・若者たちの思いに共感しつながらと巻き返しの可能性と希望があることを、考え合いたいと思います。

趣旨提案：馬場久志（日本薬科大学，民研運営委員）

<報告>

10時20分－11時40分※時程は予定です。

報告1「教育相談から見える子ども・学校～宮城より」

瀬成田実さん（みやぎ教育相談センター）

12時40分－14時00分

報告2「サークル対話を通して他者と出会う場をつくる」

渡部翔子さん（公立定時制高校）

14時10分－15時00分

自由討論

第2分科会〈環境と地域〉教育分科会

〈核開発〉と向き合う

――教職員自身が、そして子ども・若者とともに――

* 趣旨説明：日本はこの3月で福島原発事故から15年を迎えます。あのとき、圧倒的に多くの人々が「原子力社会」からの決別を求めました。ところがここ数年あたかもあの事故がなかったかのように、「原発ルネサンス」的状況（原子力基本法改正、エネルギー基本計画の改訂、新潟や北海道における原発再稼働の容認、等）が広がっています。この分科会では、各地の〈核開発〉をめぐる最新動向をフォローしながら、あらためて教育関係者が〈核開発〉と向き合うことの意義と課題について考えていきます。みなさまのご参加をお待ちしています。

* 日時：2026年1月11日（日）10:00～15:30

* 場所：オンライン（※お申し込み後にアクセス先情報をお知らせします。）

* 内容：

1. 趣旨説明＋参加者自己紹介

2. 報告Ⅰ 「中学生は『核のごみ』の文献調査をどうとらえたか」
山本悦生（島根県／益田市立中西中学校）
3. 報告Ⅱ 「東海第2原発再稼働問題について」 栗又衛（茨城教育研究所）
4. 報告Ⅲ 「北海道の核ゴミ問題と原発にどう向き合ってきたか」 川原茂雄（札幌学院大学）
5. 全体討議

第3分科会 ジェンダー平等と教育

世話人：杉田真衣（東京都立大学）

趣旨：

運動による進展はありながらも、ジェンダー平等への道は未だ険しく、性暴力がはびこっているのが、日本社会の状況である。それでも、〈わたし〉を出発点としながら教育実践の創造を続けている教員たちがいる。そうした教員たちは、生徒や学生たちとどのように出会い、語り、学びをつくり出してきたか。二人の教員から報告していただき、それを受けて参加者で語り合うことで、性をめぐる日本のこれまでとこれからについて考えたい。

報告：

性暴力の問題に取り組み続けて（平井美津子／公立中学校教員・大学非常勤講師）

ジェンダー問題を通して成長した生徒たち（中村寿枝／私立高校教員）

第4分科会 教育課程分科会

教育課程研究委員会は、年報の最新号（第25号）の特集「未来をひらく教育課程と授業づくり」を担当しました。本分科会では、それを使って報告をし、質疑・意見を出し合います。（初日10日に購入ください。未入手の方も、11日のzoomの日には画面共有をしますので、参加できます。）

併せて、新学習指導要領に向けた中教審の論議について批判的に検討します。（金馬国晴）年報は以下のような内容で、そのうち、滝口正樹（東京、中学、社会科及び大学非常勤）、鈴木博美（東京私学、高校、家庭科）の実践に関するⅡ・Ⅲ章を本人が報告し、現在の学習指導要領改訂に関連する諸問題につなげます。なお、両氏は、教育のつどい（教育研究全国集会）にほぼ毎年立候補してレポートし続けてきました。本特集は、個人史としてのライフストーリーを含み、また、社会科史、家庭科史、そして現代史全般に連動するライフヒストリーを描いたものになっている上に、あらゆる教科・領域を深く考える材料に十分になり得ます。

はじめに

いま なぜ 教育課程と授業づくり実践なのか

I 教育DX時代における学校と教師の課題（総論）

(分科会で報告するのは以下、ⅡとⅢ)

Ⅱ 滝口正樹の教育課程・授業づくりが切り拓いたもの

1. 年表と私の実践
2. 中学校社会科の教育課程と授業
3. 中学校社会科授業ガイドダンスと学習項目
4. 社会のしくみに迫り当事者と出合わせる
5. 授業で学んだこと一かつての中学生／大学生

Ⅲ 鈴木博美の教育課程・授業づくりが切り拓いたもの 52頁

1. 私立高校における家庭科の教育課程と授業 コラム①刺し子とは
2. 教科書と正則での教育課程との関係
3. 卒業生が語る正則高校の家庭科 コラム②正則高校で学び、今の私がある
4. 生徒ノートから見た学びの履歴

Ⅳ 教育課程づくりの諸課題 (現在の問題に関する論文5点—特別支援教育、教職の専門性、教科教育と探究的な学び、教職科目、教師)

Ⅴ 未来をひらく教育課程と授業づくり (座談会のまとめ文)

第5分科会 「教員の『働き方改革』はいま？」

給特法が改正されても、教師の労働条件は改善されず、さらに「主務教諭」の導入など学校現場に危機が。新自由主義教育改革が先行するアメリカ、特にシカゴ市の教育改革の状況、学校をめぐる保護者や住民との共同のあり方などを踏まえた上で、「教員の「働き方改革」はなぜ進まないか」をもとに徹底討論を行う

午前

問題提起

- 1 「アメリカにおける教育改革の動向と「教員の働き方」 —教員組合とチャーター・スクールの変貌に沿って—」 山本由美 (和光大学名誉教授・東京自治問題研究所)
部活動の地域移行にも触れながら
- 2 給特法改正を受けた自治体の動きについて (全教から 愛知?)

午後

- 3 「教員の「働き方改革」はなぜ進まないのか —教員、教育の特殊性を踏まえた改革提言」高橋哲編著 (2025) をもとに合評会形式で討論

高橋哲 (大阪大学)

山崎洋介 (大阪大学) 他